

(別紙)

計画の目標

本宮市では、「共に支えあうやさしいまちづくり」を基本目標に掲げた第1次総合計画に基づき、子ども、高齢者、障がい者等、市民誰もが生涯にわたって心身ともに健康で、豊かな生活を送れる環境づくりに取り組んできた。

しかし、東日本大震災及び福島原子力発電所事故により、市民の活動が物理的・精神的に制限され、特に、子どもたちの屋外での遊びにおいては、放射能に対する不安が完全に解消されておらず、放射能による健康への影響の不安から、屋外での遊具を利用した遊びは敬遠される状況が続いている。

震災等からの復興と「共に支えあうやさしいまちづくり」の一層の推進を図るべく、除染の実施と併せて、子育て世帯が安心して外遊び及びスポーツをする機会の増加を図り、子どもたちの体力を向上させることを目標とする。

計画の区域

(1) 事業実施箇所

【第1回事業計画の事業実施箇所】

- |   |                    |              |
|---|--------------------|--------------|
| 1 | スマイルキッズパーク         | 本宮市糠沢字石神50番地 |
| 2 | しらさわグリーンパーク「記念樹の杜」 | 本宮市糠沢字石神地内   |

【第2回事業計画の事業実施箇所】

- |   |            |               |
|---|------------|---------------|
| 1 | 荒井地区公民館    | 本宮市荒井字茶園5番地   |
| 2 | 仁井田地区公民館   | 本宮市仁井田字寺下15番地 |
| 3 | 岩根地区公民館    | 本宮市岩根字上土淵6番地  |
| 4 | 白沢公民館和田分館  | 本宮市和田字久保171番地 |
| 5 | 白沢公民館糠沢分館  | 本宮市糠沢字原241番地  |
| 6 | 白沢公民館長屋分館  | 本宮市長屋字小山34番地  |
| 7 | 白沢公民館稲沢分館  | 本宮市稲沢字見切田53番地 |
| 8 | 白沢公民館松沢分館  | 本宮市松沢字池平36番地  |
| 9 | 地域開放児童用プール | 本宮市本宮字舞台地内    |

【第3回事業計画の事業実施箇所】

- |   |        |            |
|---|--------|------------|
| 1 | みずいろ公園 | 本宮市本宮字馬場地内 |
|---|--------|------------|

【第4回事業計画の事業実施箇所】

- |   |                 |             |
|---|-----------------|-------------|
| 1 | 岩根幼稚園・岩根小学校(併設) | 本宮市岩根字下年神地内 |
| 2 | 五百川小学校          | 本宮市荒井字西畑地内  |
| 3 | フォーシーズンしらさわ秋公園  | 本宮市糠沢字光が丘地内 |

(2) 事業の効果が見込まれる区域：本宮市全域

## 計画への位置づけ

「本宮市第1次総合計画」において、公園の整備については子どもから高齢者まで気軽に運動や遊びに親しみながら、人との交流や健康づくりなど多様な市民のニーズに対応した公園の整備を推進することとしており、原子力発電所事故によって限られた場所での運動を強いられている子どもたちに本来の運動の場を提供する今回の計画は整合している。

また、「本宮市震災・原子力災害復興計画（第3版）」において、「多様な世代が安全・安心を実感する暮らしの再生」を目標に掲げ、その施策のひとつである「健康対策」の取組みとして、子どもの運動機会の確保を図ることとしている。

「本宮市震災・原子力災害復興計画（第3版）」P7～P9 ※一部抜粋

### 施策1-2 健康対策

#### **【現状と課題】**

- 東日本大震災による原発事故の長期化に伴い、放射線の健康への影響について市民の関心と不安が高まっており、その対応が必要となっています。特に妊婦や子どもを持つ親の不安解消を図る必要があります。
- 住環境、教育環境の変化や家族・友人関係の変化、さらには家族がばらばらに避難生活を強いられているケースもあり、子どものみならず大人も多くのストレスを受けているため、きめ細やかな心のケアが必要となっています。

#### **□具体的な取り組み**

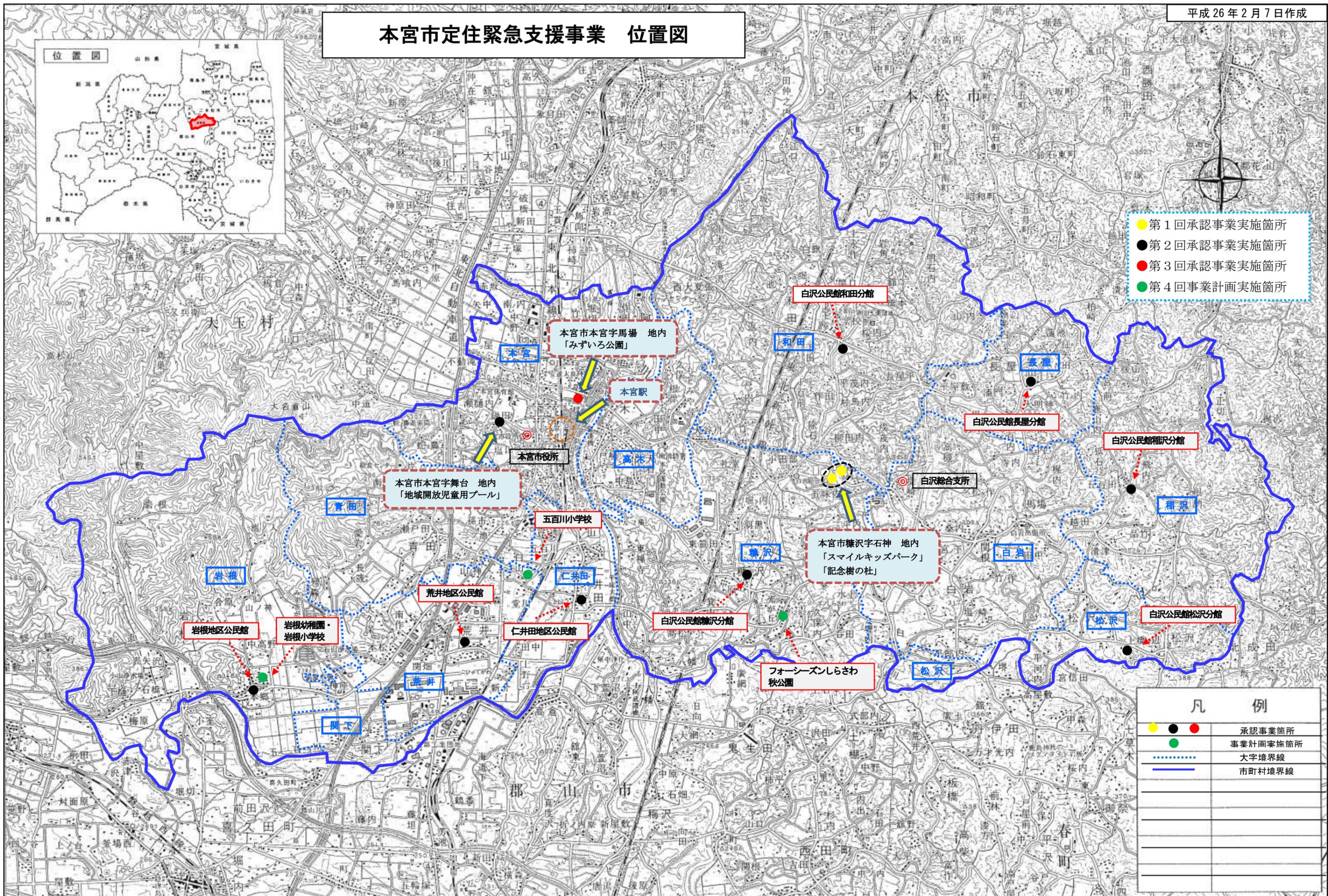
##### (3) 市民の心身ケア（ストレス対策）の推進

- ・屋外遊びを控えている子どもたちの心身ケア対策として、子どもの運動機会を確保するため、屋内遊び場や除染を徹底した屋外遊び場の整備・改修、さらに他市町村との交流行事を進めるなど、子育て世帯が安心して活動できる環境の充実を図ります。

# 本宮市定住緊急支援事業 位置図



- 第 1 回承認事業実施箇所
- 第 2 回承認事業実施箇所
- 第 3 回承認事業実施箇所
- 第 4 回事業計画実施箇所



凡 例	
●	承認事業箇所
●	事業計画実施箇所
.....	大字境界線
——	市町村境界線

(様式1-2)

本宮市 定住緊急支援事業計画に基づく事業等

平成26年4月時点

No.	事業番号 (注1)	事業名 (注2)	地区名 施設名	交付 団体	事業 実施 主体	平成25年度の 交付対象事業費  (単位:千円)	【参考】		
							全体事業費 (注3)	全体事業 期間 (注4)	備考 その他(注5)
1	B - 1 - 1	スマイルキッズパーク(屋内運動施設)増築事業	本宮市糠沢字石神地区 スマイルキッズパーク	市	本宮市	(39,620) <39,620>	39,620	25 ~ 25	
2	C - 1 - 1	スマイルキッズパーク「記念樹の杜」 屋外運動施設整備事業	本宮市糠沢字石神地区 しらさわグリーンパーク 「記念樹の杜」	市	本宮市	(316,362) <316,362>	316,362	25 ~ 25	
3	◆ C - 1 - 1 - 1	スマイルキッズパーク「記念樹の杜」 屋外運動施設プレイリーダー育成事業	本宮市糠沢字石神地区 しらさわグリーンパーク 「記念樹の杜」	市	本宮市	(5,614) <5,614>	5,614	25 ~ 25	
4	A - 1 - 1	地区公民館・分館遊具更新事業	市全域 地区公民館・分館 (荒井地区公民館外7ヶ所)	市	本宮市	(38,664) <38,664>	38,664	25 ~ 25	
5	B - 1 - 2	本宮市子ども屋外プール整備事業	本宮まゆみ小学区 (本宮市子ども屋外プール)	市	本宮市	(335,815) <335,815>	335,815	25 ~ 25	
6	A - 1 - 2	みずいろ公園遊具更新事業	本宮市本宮字馬場地区 みずいろ公園	市	本宮市	(121,032) <121,032>	121,032	25 ~ 25	
7	A - 1 - 3	文教施設等遊具更新事業	本宮市荒井字西畑地区 外 五百川小学校 外	市	本宮市	40,053 <40,053>	40,053	25 ~ 26	
8	A - 1 - 4	フォーシーズンしらさわ秋公園遊具更新事業	本宮市糠沢字光が丘地区 フォーシーズンしらさわ秋公園	市	本宮市	14,364 <14,364>	14,364	25 ~ 26	
合 計						(857,107)	/		
						54,417			
						<911,524>			
						(851,493)			
(うち基幹事業)						54,417	/		
						<905,910>			
(うち効果促進事業)						(5,614)	/		
						0			
<5,614>									
県名	福島県		担当部署名	市長公室 政策推進課		担当者氏名	鈴木 正史		
市町村名	本宮市		電話番号	0243-33-1111(内線218)		メールアドレス	seisaku@city.motomiya.lg.jp		

(注1)「事業番号」は、基幹事業については、「(制度要綱別表の番号)-(同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」、効果促進事業については、「◆(最も関連する基幹事業の事業番号)-(最も関連する基幹事業ごとの通し番号)」となるよう記載する。

(注2)「事業名」は実施する事業の内容がわかるように任意の名称を記載する。

(注3)「全体事業費」は、「全体事業期間」を通じての全ての事業費を記載する。

(注4)「全体事業期間」は、平成26年度以降に実施することが見込まれる事業については、平成26年度以降も含めて記載する。

(注5)事業間流用を行った場合には、「備考」の「その他」に事業間流用を行った旨、その時期及び額を記載する。なお事業間流用を行う場合には、流用する(流用される)事業名も合わせて記載する。

(注6)担当者氏名等は県及び市町村の担当者を並べて記載する。

(注7)上段( )書きは、前回までに配分された額を記載し、中段には今回申請する額を記載する。

(様式 1-3)

## 本宮市定住緊急支援事業計画に基づく事業等個票

平成 26 年 4 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	7	事業名	文教施設等遊具更新事業	事業番号	A-1-3
交付団体	本宮市	事業実施主体	本宮市		
総交付対象事業費	40,053 (千円)	全体事業費	40,053 (千円)		
事業概要					
○事業の概要					
<p>幼稚園・小学校等の文教施設は、日中は在校児童が、放課後・休日も在校児童を含む地域の子ども達が活用する等、子育て世代の多くの人々が集う地域の拠点施設であるが、震災後、遊具を活用した遊びや運動を子育て世代が敬遠する傾向にあるため、市内の小学校(7)、幼稚園(6)、保育所(8)の施設の遊具を更新し、体力向上を図るとともに、安心して子育てを行う環境対策の一つとして、市民の定住意識向上や避難者帰還の促進を図る。</p> <p>更新に当たっては、事業効果の高い施設を中心に選考の上、措置していく中、今回、以下の施設の遊具を更新する。</p>					
・五百川小学校 滑り台 1 基、タワーネットシングル 1 基、ジャングルジム 1 基、4 連ブランコ 1 基、けんすいシーソー 1 基、4 人シーソー 1 基、のぼり棒 1 基、雲梯 1 基、高低鉄棒 1 基、10 連低鉄棒 1 基、ロッククライマー 1 基					
・岩根幼稚園・岩根小学校 (併設)					
(幼) 4 連ブランコ 1 基、すべり台 1 基、低鉄棒 1 基					
(小) コンビネーション 1 基、ジャングルジム 1 基、雲梯 1 基、シーソー 1 基、高低鉄棒 1 基 4 連ブランコ 2 基、10 連低鉄棒 1 基、のぼり棒 1 基、滑り台 1 基、ロッククライマー 1 基					
■計画への位置づけ					
「本宮市震災・原子力災害復興計画(第 3 版)」P7~P9 ※一部抜粋					
<u>施策 1-2 健康対策</u>					
【現状と課題】					
○東日本大震災による原発事故の長期化に伴い、放射線の健康への影響について市民の関心と不安が高まっており、その対応が必要となっています。特に妊婦や子どもを持つ親の不安解消を図る必要があります。					
○住環境、教育環境の変化や家族・友人関係の変化、さらには家族がばらばらに避難生活を強いられているケースもあり、子どものみならず大人も多くのストレスを受けているため、きめ細やかな心のケアが必要となっています。					
□具体的な取り組み					
(3)市民の心身ケア(ストレス対策)の推進					
・屋外遊びを控えている子どもたちの心身ケア対策として、子どもの運動機会を確保するため、屋内遊び場や除染を徹底した屋外遊び場の整備・改修、さらに他市町村との交流行事を進めるなど、子育て世帯が安心して活動できる環境の充実を図ります。					

## 人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係

○原子力発電所の事故以前と比較した人口の流出の状況及びそれにより生じている地域の復興における支障(制度要綱第5の1)

- ・本市の人口推移については、全国的に少子高齢化が進み人口減少に転じている地域が多い中であって、15才未満の人口割合が比較的安定した状態で推移していた。
- ・しかしながら、2011年3月に発生した、東京電力福島第一原子力発電所事故を境に、放射能の健康への影響を心配する子育て世帯を中心に、多くの市民が市外に避難する状態が続いている。
- ・原発事故発生前の平成23年3月1日と、平成25年3月1日の人口を比べてみると、65才以上の老年人口は202人増加しているものの、15才未満の年少人口が315人、15から64才の生産年齢人口が556人減少しており、全体では669人減少している状況である。
- ・特に、本市においては、社会的要因による人口減少が平成22年度でほぼ生じていなかったにもかかわらず、原発事故発生後の平成23年度では415人、平成24年度においても100人が社会的要因により減少しており、原発事故が大きな要因となっていることが推察される。
- ・さらに、全国避難者情報システムによると、平成24年10月時点の避難世帯数は46世帯、避難者数124人となっており、そのうち、概ね半数が15才未満の年少者となっている。
- ・もし、この状況が続いた場合、将来的な労働力人口の減少等により、地域経済にも大きな影響を与えることとなる。※経済センサスによると、製造業において、平成22年に従業者数が5,573人、製造品出荷額等26,067,849万円だったものが、平成23年では、それぞれ5,418人、14,762,969万円にまで落ち込んでいる。

### 【子どもの運動機会の確保のための事業】

○事業実施の必要性(制度要綱第5の1)

- ・福島原子力発電所事故の影響により、市民が屋外での活動を敬遠している傾向がある。特に、子どもたちの外遊びについては、放射能に対する不安が完全に解消されていないこともあり、屋外での遊具を利用した遊びは敬遠される状況が続いている。

外遊びの不安解消を図るため、在校児童に限らず地域に開放されている小学校等の遊具の更新を行うことにより、子育て世帯が安心して親子で外遊びをする機会の増加と子どもたちの体力の向上を目指す。

○震災前に比較して子どもの運動機会の確保が十分に図られていないこと(制度要綱第5の4の二①)

- ・本市にとどまっている子どもたちについても、原発事故以降、運動・遊びにとって最も重要な時期である成長期に、安心して外で遊ぶことができなかったことにより、平成24年に実施した体カテストの各項目において、全国平均を下回る傾向となっている。例えば、50m走は、全国平均に比べ、男女とも全学年で0.5～1秒程度遅い結果となっている。また、運動不足等が原因とみられる肥満傾向児童割合も増加している。

・50m走平均：1学年から6学年 男女とも 全国平均から約1秒程度遅い

・肥満傾向割合：震災前(平成22年度)と震災後(平成24年度)を比較すると高学年になるほど肥満割合が増加(岩根小・五百川小)

○地方公共団体における既存の運動施設が不足していること(制度要綱第5の4の二①)

- ・放射能による健康への影響の不安から、屋外での遊具を利用した遊びは敬遠され、遊具の使用頻度が低い状態となっており、子どもたちの屋外での運動機会が減少している。

○既存の施設を更新又は改築することによらなければ運動機会の確保を十分に図ることができないこと(制度要綱第5の4の二①)

- ・遊具は直接素肌に触れる部材が多いため、除染のみでは活用度合の回復が図られにくい。利用者層も周囲の意見に影響を受けやすい子どもでもあるため、利用敬遠者が少数存在するだけでも遊びづらい印象が周囲に拡大

し、皆で遊ぶ環境が形成されにくい。このため、既存遊具の一斉更新により、物理的な不安を完全に取り除き、印象と運動意欲の向上を促す。

・五百川小学校及び岩根幼稚園・岩根小学校(併設)の近隣には、多くの子どもが遊具を利用して遊べる公園等の施設が少ないため、児童の利用状況や整備期間等を考慮すると、学校等の遊具を更新することが最も効率的であるため。

○施設等の整備の内容及び方法が事業の目的に照らして適切であり、効率的なものとなっていること(制度要綱第5の4の二①)

・本宮市が平成24年8月に行った市民アンケート調査(20才以上の市民2,000人:回答数842人、回答率42.1%)では、今後重要と考える取組みとして、「遊び場の整備」が「福祉施設の充実」に次いで、2番目に高くなっており、本事業を実施することにより、市民の安心度及び満足度を高め、定住を促進することができる。

・維持管理や運営については、既存の遊具施設の更新であるため新たな経費を伴うものではなく、現在の維持管理体制により管理を続けることができるため、最小限の経費で管理運営ができる。

※引用元:本宮市国土利用計画及び本宮市都市計画マスタープラン市民アンケート調査結果(利用想定者数)

- ・岩根幼稚園・岩根小学校 475人
- ・五百川小学校 410人

○地方公共団体の広域の住民による活用が図られるよう計画されていること(制度要綱第5の4の二②)

・今回整備を計画する施設は、小学校区の中心に位置し、大字を単位とする多くの子どもが通うのに分かりやすく、地域バランスのとれた立地条件である。

・学校等の敷地は、日常の維持管理が徹底されており、遊具設置に必要なスペースも十分に確保でき、地域の子ども達が通い慣れた場所である。また、教諭やPTA等の大人に見守られながら安全に遊ぶのに最も適した場所である。

・地域への開放は、平日の放課後及び土日に行い、広報誌等により周知を図る。

○整備を予定している施設における運動の効果を一層向上させるためのソフト的な取組(制度要綱第5の4の二②)

・教員による遊具を使った効果的な運動方法や、授業時間・休憩時間を通しての適切な指導等を行う。

○その他(効果の検証方法)

・子どもたちの運動能力の評価については、各施設にて体力テスト等の調査を実施し、震災前後の測定結果との比較により事業効果について検証を行う。また、身体測定により肥満解消度のモニタリングと保健指導を継続的に実施する。

※効果促進事業である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	

